

# 村上市地域安全克雪方針策定ワークショップニュース No. 2

第2回『目標達成にむけて必要な地区のルールや取組を検討する』

■作成

村上市 企画戦略課企画政策室（担当：山田）

TEL：0254-53-2111（内線3810・3811）

FAX：0254-53-3840



## ワークショップの概要

### 目的

除排雪に関する地域の課題の共有や、将来のあるべき姿について議論や検討を行い、その内容を各地域での取組や課題解決に役立てるとともに、意見を地域安全克雪方針に反映する。

### 第2回開催概要

日時	令和4年11月29日（火） 18:30~20:00
場所	村上市教育情報センター 会議室 A・B
参加人数	17人（意見交換は3グループに分かれて実施）
内容	<b>説明</b> ①前回のふりかえり ②具体的な取組事例の紹介 ③ワークショップの進め方
	<b>意見交換</b> ①目標の達成に向けた取組 ②将来の地区の姿



### スケジュール

回	開催日	検討内容
第1回	10月26日（水）	・除排雪に関する地区の課題を抽出し、将来の目標を設定する
第2回	11月29日（火）	・目標の達成にむけて必要な地区のルールや取組を検討する
第3回	1月22日（日）	・降雪期を迎えてこれまでの検討内容を振り返る

### 次回

日時：1月22日（日）13:30~

これまでと時間が異なります

会場：村上市情報教育センター 会議室 A・B

テーマ：『降雪期を迎えてこれまでの検討内容を振り返る』

実際に除排雪を行う季節を迎え、前回までに検討した内容について補足等はないか確認します。



## これまでの意見交換のまとめ

目標  
(第1回検討結果)

- 目標1**  
人材育成
- 目標2**  
地域で除排雪をする仕組みづくり
- 目標3**  
ルールの設定によるスムーズな除排雪の実施
- 目標4**  
地域の雰囲気づくり

目標を実現するためには…



### 目標の達成に向けた主な取組

分類	取組内容
人手不足の解消	<ul style="list-style-type: none"> <li>●有償ボランティアや学生ボランティアの結成・育成</li> <li>●自主防災組織や除雪班等、地域内の体制づくり</li> <li>●除雪が習慣となるよう子どもに教える</li> <li>●誰もが機械操作ができるよう講習会を実施</li> <li>●地区役員の意識を高めるための勉強会の実施 等</li> </ul>
地域のルールの設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>●除雪のルートや優先順位を決めて効率的に除雪を実施</li> <li>●当番や役割分担による公共の場（消火栓・ゴミ捨て場・通学路等）の除雪作業の実施</li> <li>●地区で一斉に除排雪を行う日を設定 等</li> </ul>
コミュニケーション強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●常日頃からの声掛け等によるつながりの強化</li> <li>●災害時にも対応できるような近所付き合い</li> <li>●講習会等を通じた住民同士の交流の促進 等</li> </ul>
情報収集・情報共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>●要支援者や地域の人材を把握</li> <li>●地域内で課題を共有する場や、隣接集落等との情報を共有する場の設置 等</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●機械の貸出や補助等、公的支援の拡充</li> <li>●支援制度等の地区への周知 等</li> </ul>

- 《取組主体》
- 個人
  - 地域の組織
  - ボランティア
  - 事業者
  - 行政



### 将来の姿

みんなが助け合う 大雪でも不便なく生活できる 安全安心で元気に暮らせる



### 《説明と各グループの議論の様子》



全体への説明



Aグループ



Bグループ





Cグループ



# ■各グループの意見

## ①目標の達成に向けた取組等

取組の主体 ●個人（利用者・隣近所） ●地域の組織（自治会・自主防災組織・青年団・消防団等） ●ボランティア ●事業者 ●行政（市・県・国）

Aグループ		Bグループ		Cグループ	
項目	取組内容	項目	取組内容	項目	取組内容
個人の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●通学路をスコップ、機械で除雪</li> <li>●除雪作業が必要か確認</li> <li>●除雪を毎日の習慣になるように子どもに教える</li> </ul>	高齢者支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日頃からニーズを把握</li> <li>●高齢者宅の玄関周り除雪</li> <li>●近隣の協力者をつのる（高齢者宅の除雪）（人手不足）</li> </ul>	人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>●区の役員の意識を高めるために勉強会</li> <li>●学生ボランティアの活動の場を作る</li> <li>●機械操作を楽しいイベントとして案内し、若者を集めて楽しく作業できる取組</li> </ul>
状況把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>●降雪時の役員による調査</li> <li>●地域の人の状況の把握（年齢、除雪機の運転ができるか等）</li> <li>●要除雪支援対象世帯の選定（高齢者単身世帯、高齢者のみの世帯）</li> <li>●高齢者宅、公共施設、ゴミ捨て場、神社等の除雪</li> </ul>	除雪機械有効利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●除雪機械に対する補助があることを周知（地区に伝える）</li> <li>●●オペレーター講習会</li> </ul>	地域で除排雪をする仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●我が家の雪かきのついでに、近くの高齢者宅も行う</li> <li>●町内(自治会)の年間予算に、除雪をはじめ防災に対する報酬を予算に盛りこむ</li> <li>●仕組みづくりの方法を研修する</li> <li>●定期的な見守り運動</li> </ul>
声かけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●常日頃から声かけ、あいさつを通して、人と人のつながりを作っておく</li> <li>●災害等に対応するためには、克雪だけでなく常日頃から声かけ等を行い、人と人のつながりを大切にしてい</li> <li>●何事も助け合うことを前提に、4~5件のグループに分け、災害時に備えておく</li> <li>●常日頃の付き合いが、いざ災害の時等の避難時に役立つ</li> </ul>	共同作業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各地区でワークショップ（除雪会議）を開き、地区の現状を共有、課題解決を図る</li> <li>●防災組織の体制づくり</li> <li>●ボランティアはなかなか集まらないので、除排雪は自治会でやった方が良い</li> </ul>	ルール設定によるスムーズな除排雪	<ul style="list-style-type: none"> <li>●区が日にちを決めて、全世帯一斉に行動するような取組</li> <li>●自治会の中で誰もが機械操作ができるようにする</li> </ul>
仕組み・ルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>●除雪班員はまず自分の組の状況を見回ってもらい、できることはやってもらう</li> <li>●班員だけで出来ない時は、他班の班員に協力を求める</li> <li>●自主防災組織、除雪班の設置（1組~6組で16名の班員がいる）</li> <li>●除雪は空き地等といったん集め、状況によりトラックで雪捨て場へ運ぶ</li> <li>●消火栓の除雪は毎日点検する</li> <li>●除雪ルートを決めて行う</li> <li>●消防団、高校生、区役員等の支援体制（早朝、夜間、休日）</li> <li>●空き家の除雪は当番にする</li> <li>●休日に人員を多くし、広範囲に作業をする</li> </ul>	人手不足の解消	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業者の理解（降雪時は雪かきを優先し出社を遅らせることを許容するなど）</li> <li>●●人手不足を解消するための、機械で省力化するしくみづくり</li> <li>●学生ボランティア組織づくり</li> <li>●●報酬による住民除雪部隊</li> <li>●協力者への報酬、協力者への除雪機械の貸出</li> </ul>	地域の雰囲気づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●最初は区長が先頭になってがんばり、徐々に協力者を作る</li> <li>●機械操作講習会などを通じ、地区の若者（消防団）と老人（老人会）との交流</li> <li>●回覧板の手渡しを通じた声かけ運動</li> <li>●地域のなかの課題を共有する場を設ける</li> <li>●一集落でなく、隣接する集落等との話し合いの場を設ける（他の良いところや課題を共有し学ぶ機会をつくる）</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●●ポイントカードなどを活用し地域内ボランティア（有償）の育成</li> <li>●●個人に対し、排雪できる場所を募る</li> <li>●●市の除雪業者には、道路角に圧雪を押し付けるやり方は指導してもらいたい</li> <li>●●将来の公的支援（燃料代、照明等の設備機器）の充実</li> <li>●●市の除雪支援、助成金の拡充（排雪トラックの燃料代、傷害保険への助成）</li> <li>●●相続放棄した空き家の問題</li> </ul>	除雪作業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●●早朝の通学路、ゴミ捨て場の除雪作業は集落内の役員で（会社関係定年になった方）。平日は定年層が作業、土日は勤労層が作業で作業分担</li> <li>●●効率的な通学路の変更（降雪時は裏口からの登校を許容するなど）</li> <li>●●消火栓周りの除雪</li> <li>●●ゴミ捨て場の除雪</li> <li>●●市道の除雪は、市の業者でOK。現在は介護施設へ行く歩行困難者のため道路までの除雪はトラクターの排雪で行っているが、トラクターの維持管理が困難。国、市からの貸与機械を望む</li> </ul>	 	
		共用施設の除雪			

## ②地区の将来の姿

	Aグループ	Bグループ	Cグループ
短期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地区の状況を把握している</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集落内での除雪作業の仕組みづくり（平日と土日の役割、作業分担、当番など）</li> <li>○高齢者リストづくり、情報把握と行政への情報提供</li> <li>○郵便職員、新聞配達員などが玄関先の除雪がなされていない世帯などの情報把握</li> <li>○共用施設の除雪に関する優先順位の整理（例：消火栓→ゴミ捨て場→通学路など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○まずは取組意識を高め、地域の課題を皆で共有する</li> <li>○町内（区内）のルールづくり（3年以内につくる） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールがあれば、頼む側も「たのみやすい」</li> <li>・ルールがあれば、やる側も「動きやすい」</li> </ul> </li> </ul>
中期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○状況に応じた体制ができている（人の減少、雪の量など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外部の人や住民に作業してもらう対価として十分な報酬が準備されている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ルールの下で、繰り返し取組を進めながら、ルールを検証し、より良いものに磨き、ルールの幅をひろげていく <ul style="list-style-type: none"> <li>・悪いところを見直す</li> <li>・除雪だけでなく他の取組も</li> <li>・冬だけでなく他の取組も</li> </ul> </li> </ul>
長期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○みんなが助け合っているいろいろなことに取り組む（除雪以外のことも）</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人口減少・高齢化が進行しても機械化でカバーできる</li> <li>○大雪でも不便なく生活できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○若者を含めて、地域（地区）の一体感が生まれる ⇒安全安心で元気な暮らし</li> </ul>